

- ・「自己評価」：園の保育者が個々の自己評価を基につけた評価
- ・「施設関係者評価」：関係者評価委員会がつけた評価
- ・評価基準 A：よくできている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての園の説明	関係者評価	関係者評価委員会の説明
組織運営	1	特色ある園づくりを目指し、職員が協力し合う体制を作っている。	B	・仏教保育を基盤としながら、子どもの主体性を尊重する「援助型」の保育を職員間で実践している。	A	「援助型」保育により、保育者は子どもの声を聴きながら保育していると理解できる。子どもの興味・関心に即した遊びを大切にし、子どもと保育者が対等な立場で関りをもっている。上記の点から、「よくできている」と評価した。
	2	子どもや園の実態、保護者や地域の意見・要望等を踏まえて教育目標を設定し、重点化された中・短期の目標が示されている。	B	・ホームページ、4月園だよりにて、園全体の教育目標、理念を示している。 ・それに基づき、各年齢の年間指導計画、月間指導計画に反映させながら、日々の保育に取り組んでいる。 ・年度当初には、当該年度に園が取り組むことを職員間で共有し、年度末には評価を行うPDCAサイクルを取り入れている。	B	教育目標などが園だより等で適切に保護者に周知されていることから「概ねできている」と評価した。保護者や地域への提示の仕方については、関係者がさらに理解できるような工夫を凝らしてもらいたい。
	3	事故やトラブルに対して、組織的、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・ケガや事故の発生の場合には、事故対応マニュアルに沿って迅速に対応できるよう努めている。 ・今年度は保育中の骨折という重大事故が生じた。園としては、お子様ならびにご家族へ対応、再発防止に向けた職員間での話し合いと周知を行った。	A	保護者としては集団での生活では、ケガがつきものであると認識している。行政のガイドラインに即した対応と、子どもがケガをした際に、即座に保護者に写真添付メールが送付され、保護者の判断と安心につながっている。上記の対応を踏まえて「よくできている」と評価した。

	4	働き方改革、ハラスメント、職務規律を意識して、職員の勤務体制・意識の改善を図っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の職員研修にて、次年度にむけての職務規定や勤務体制やなどの周知を行っている。</li> <li>・職員の SNS 活用について保護者から指摘を受けた事例があった。</li> <li>・ハラスメント防止対策として、園長の指導の下、相談窓口を設置及び園内体制の整備を行い防止に努めている。</li> </ul>	C	職員間のハラスメントは保護者からは見えにくいので評価が困難である。一方、職員のプライベートでの SNS 利用に保護者から指摘があったことは、再発を防止の取り組みが必要である。さらに、ハラスメントに対する窓口は、園長だけではなく相談しやすい複数の職員を任命する必要がある。上記から「あまりできていない」と評価した。
	5	管理職の明確なリーダーシップのもと、保育者が生き生きと働いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の育成を目的とした組織体制への転換を図った。様々な場面でトップダウンではなく、誰もがリーダーシップを発揮できる園体制へ移行した。</li> <li>・若手の保育者が子どもに経験してもらいたい保育内容を計画し、実践する姿が見られるようになった。</li> <li>・若手職員の離職がなくなった。</li> </ul>	A	園長のリーダーシップにより、組織改編が適切に行われていることから「よくできている」と評価した。
	6	園の財務運営状況が適切に公開されている。	B	・財務運営状況につきましては、園ホームページにて、公開している。	A	適切に公表されていることから「よくできている」と評価した。
教育課程・保育	7	保育者は、個々の成長に向け、子どもが楽しく工夫した保育を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に子どもの姿、子どもの興味関心から日々の保育へ発展させている。</li> <li>・その中に計画のねらいや保育者の願いも入れながら関わっている。</li> </ul>	A	日々のおたよりや玄関掲示、行事での子どもの姿から子どもの園生活が充実していると保護者も認識していることから「よくできている」と評価した。
	8	教育目標の具現化を目指し、教育課程を編成・実践・評価し教育活動の充実・改善を図っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の年間指導計画と子どもの姿に即した目標を立案し、日々の保育実践を行っている。</li> <li>・日々の業務の煩雑さから、PDCA サイクルへの取り組みが不足している部分もある。</li> </ul>	B	園の計画についてその都度見直しを行う姿勢がうかがえることから「概ねできている」と評価した。

9	豊かな心の育成を目指し教育活動を行っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情操教育として、本物の文化に触れる（音楽、芸術）ことへの取組みを大切にしてきたが、感染症の影響から、そのような機会が減少している。</li> </ul>	B	感染症の影響もあるが、ICTを保育に活用しながら代替手段を用いて保育を工夫している。上記から「概ねできている」と評価した。
10	子どもは、安定した気持ちで生活し、園生活を楽しんでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気と日々の日課を大切に保育する保育を心がけている</li> <li>・行事の見直しを行うことで、行事を子どもの姿に合わせ、子どもの情緒的の安定を図っている。</li> </ul>	B	子どもは安定した気持ちで園生活を楽しんでいると保護者は認識していることから「概ねよくできている」と評価した。一方、行事に関しては、親の不満で子どもたちの満足度が下がってしまう危惧がある。根拠のある一貫性をもった対応で保護者へ説明すべきである。この点については努力を求めたい。
11	子どもは、自身の興味関心の即した遊びに没頭し、深い学びを得ている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その時の子どもの興味関心に合った環境設定を行っている。</li> <li>・保育者は、子どもが探求心を持った時には、継続して遊びこめるような工夫を行っている。</li> <li>・子どもの姿から、どのような学びにつながっているのかといった具体的な視点での関りや遊びの姿の捉え方を学んでいく必要がある。</li> </ul>	B	項目1と同様に、保育者は子どもの遊びを大切にし、子どもは多くの経験から学びを得ていることから「概ねできている」と評価した。
12	日々の記録が次の保育に活かされ、園の計画に反映されている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の記録と保育の振り返りが、園の全体的計画、年間指導計画に反映される取り組みを行っている。</li> <li>・乳児クラスでは、個々に月の計画を立案する。日々の活動記録はお帳面で保護者に伝え、保育者の記録としても役立てている。</li> <li>・幼児クラスは月の計画を立てるために、保育者個々が記録を行っている。</li> <li>・玄関に保護者の方に発信する写真は保育者にとっても貴重な記録である。</li> <li>・記録に決まった様式はなく、保育者個々に委ねられている。</li> </ul>	B	<p>実際の保育記録の閲覧、日々の子どもの姿を鑑み「概ねできている」と評価した。</p> <p>保育者個々によって計画が後付けになっているといった現状は、子ども理解に基づいて保育が展開されていない可能性も否定できないことから、上記の点については改善の努力を求めたい。</p>

資質の向上	13	保育者の指導力向上に計画的・組織的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修会を充実させている。(別紙)</li> <li>・これからの新しい時代に即した保育を築いていくこと、保育者の資質向上を目指している。</li> </ul>	A	「循環型」研修会の取り組みにより、資質向上に向けた計画的な取り組みが行われていることから「よくできている」と評価した。
	14	個々の保育者が資質向上のために研究に研鑽している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の保育者が自らの資質向上のための学びを目的とした個人研修費を導入した。</li> <li>・実践発表(学会・セミナー・研修会)、テキスト・書籍原稿などを通し、自らの実践の振り返りと資質向上に向けた研鑽の機会として取り組んでいる。</li> </ul>	A	園独自の取り組みである個人研修費により保育者個々の学びを園がサポートしている。保育実践を学会発表や学術雑誌、テキスト出版といった手段で公表していることから「よくできている」と評価した。
	15	保育者の体罰や事故、個人情報漏洩等の不祥事根絶のために組織的に取り組んでいる。	B	・就業規則に記載されている、服務規程について、具体的な事例を通し、職員へ周知する機会を持っている。	B	不祥事への対応を具体事例から職員へ周知できているといった観点から「概ねできている」と評価した。
教育環境	16	安全・安心で温かい教育環境整備に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室の環境構成は、子ども達が遊びたい玩具を自分で選べるようコーナー作りを心がけている</li> <li>・子どもの成長に合わせた環境設定を定期的に行っている。</li> </ul>	B	安全・安心で温かい教育環境であると思われることから「概ねできている」と評価した。
	17	事故防止のためのガイドラインを遵守し、ヒヤリハットをはじめ事故防止を最優先に考慮した取組をしている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊具安全点検チェック表」を用いて、担当の職員が、事故や怪我の起こらないように、環境を設定している。</li> <li>・ヒヤリハット記録はつけているものの細かな部分への意識は不足している。</li> <li>・ヒヤリハット事例が発生した時には、まずはクラスで対応について協議したり、園全体でも共有したりして、事故を未然に防ぐ取り組みを行っている。</li> </ul>	C	保育者がヒヤリハットについて否定的なイメージがあると推察される。小さなヒヤリハットも見逃さずに、職員間で共有して意識づけをしてもらいたい。ヒヤリハットが0ということはない。子どもの安全を守るために積極的に声を上げていく風土が必要であり改善を要することから「あまりできていない」と評価した。

	18	特別支援教育体制の充実をするために特別教育支援コーディネーターの指名、園内員会の設置により、個別の計画に即した保育を展開している。	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園へ移行したが、これまで特別支援教育コーディネーター、園内委員会は設置していない。</li> <li>・個別の計画については実際に保育に活用できるものへと切り替えているが、職員間で意識の差がある。</li> </ul>	C	保護者としては現時点で丁寧に保育されていると感じるが、法令が求める努力義務に対して適切に取り組む必要があることから「あまりできていない」と評価した。
家庭・地域との連携	19	開かれた園作りを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム上、職員が更新できないことからホームページの活用が不十分である。</li> <li>・入園を考える保護者にとっては、園のホームページが最も大きな情報源であるが、更新を行っていないことからの不十分さがある。</li> </ul>	C	HPは適宜更新が必要である。そのため「あまりできていない」と評価した。
	20	家庭・地域社会と連携、協力し、より安全で豊かな教育活動を目指している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の影響から、これまでの運動会やお祭りなどの機会がなくなっていることで、地域社会との連携の機会が減少している。</li> <li>・これまでとは、違う形での連携が求められていることから、地域のお店との交流を通して、教育活動への一環とした取組みを行った。</li> </ul>	C	感染対策委員会のメンバーを保護者へ伝え、専門家から助言を得ている点を周知すべきである。園のコロナ対応の基準などの周知の仕方が保護者に混乱を生じさせている可能性があることから「あまりできていない」と評価した。一方、感染症対策については、子どもの最善の利益を最優先させるといった一貫した姿勢を示していただきたい。
	21	幼小連携教育の視点にたった教育活動を推進するために、小学校との連携を具体的に図っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の具体的な連携としては、認定こども園児童要録や就学前の連絡会にて小学校との情報共有を行っている。</li> <li>・円滑な移行のために、子どもと保護者の方が安心して就学を迎えられるような具体的な取組みに至っていない。</li> </ul>	B	園だけではなく小学校の理解も必要であり、園の努力だけでは解決できないことも多い。一方、これまでの卒園児に対する園の取り組みは肯定的に評価できる。上記を踏まえ「概ねできている」と評価した。

	22	保護者と子どもの育ちを共有するために保護者の実情に相応しい子育て支援の在り方を追求している。	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における保護者様の出入り制限に伴い、園での様子を伝えする機会が少なくなっていることに伴い以下の取組みを行った。</li> <li>① 5月～7月にドキュメンテーション(お子さんの写真)を取り入れた保護者面談の実施(0～4歳児)</li> <li>② 毎日のノート記載がない3歳以上児クラスでは、日々の保育活動をドキュメンテーション記録として定期的に玄関先へ掲示する。</li> </ul> <p>・保護者の方々からコロナ禍での子育て支援や行事の在り方について厳しい意見をいただいた。</p>	B	<p>コロナ禍においても、保育者の方々はよく対応している。保護者の方々には様々な価値観があるが、可能な範囲で対応している。玄関掲示があることで、子どもの様子が分かりやすく、どのような過程を踏んで子どもが成長しているのかを理解することができる。保育体験は難しい状況であるが、面談時に写真を見せてもらったことで子どもの生き生きとしている様子が伝わった。上記を踏まえ「概ねできている」と評価した。</p>
--	----	--	--	---	---

関係者評価委員：甘粕康太（PTA 会長）、歌川忍（保護者代表）、小林麻衣（保護者代表）、佐藤菜美（評議員）、齊藤勇紀（学識経験者）